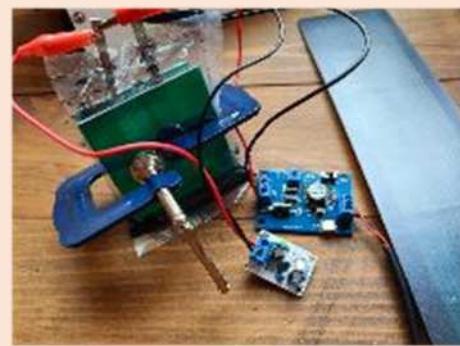


# 協働ニュース

第11号

## 脱炭素を学びながら木炭蓄電装置ワークショップで「協働」の力を実感

行政と団体が協働！脱炭素社会への第一歩を市民に伝える「木炭蓄電装置ワークショップ」  
ゼロカーボン推進課とNPO法人Class for Everyoneが協力して進めた脱炭素推進の取り組みを紹介します。



このワークショップは、ゼロカーボン推進課とNPO法人Class for Everyoneが協働事業提案制度を通じて今年度から開始した事業です。市民が脱炭素を学び、実際に行動に移すためのきっかけを提供することが目的です。ワークショップでは、木炭蓄電池を使ったソーラーシステムの作成を通じて、地域でエネルギーを作り、使うことを学べます。

参加した子ども達にも大変好評です！

### 行政と団体の協力が生んだ市民参加の場

市民団体と行政の協力により、行政が案内した会場やイベント内で実施することで、市民が参加しやすい環境が整いました。特に、親子で参加できるワークショップの3区での開催を通じて、地域全体で脱炭素意識を高めることができました。エコパークさがみはらやユニコムプラザさがみはらなど、市民が普段利用する施設を会場に選んだことも、参加者の参加意欲を高めました。

### 協働のメリット：行政と団体の役割分担で効果的に進行

市民に向けて協働でアプローチ！

行政と市民団体がそれぞれの役割を果たし、市民が脱炭素を身近に感じるきっかけを提供しました。行政が案内した会場や広報活動、団体が提供する専門的な知識とワークショップ内容が組み合わさり、協働ならではの効果的な市民参加が実現しました。

### 次年度に向けてさらなる協働と広がり

この事業は、来年度以降も継続予定です。行政と団体の協働で、さらに多くの市民に脱炭素の意識を広め、地域全体で脱炭素社会への第一歩を踏み出す力を育んでいきます。

行政と団体が力を合わせた協働事業は、単に市民に知識を伝えるだけでなく、地域の未来を作る力強い一歩となりました。協働で生まれる力を信じて、脱炭素社会への道を共に歩んでいきましょう！



教材も作成



受賞団体決定！

受賞した取組を  
check!!



協働を感じる可愛いイラスト

前年に引き続き、今年度も市内企業や団体のSDGsに関する優れた取組を表彰する「さがみはらSDGsアワード2025」を相模原青年会議所、津久井青年会議所及び相模原市の協働で開催し、5つの団体を表彰しました。

相模原市長賞	(株)ネットフィールド 【廃口ウソクとおが屑を再利用した着火剤「オガチャッカ」の開発】
優秀賞	藤野茶業部 【佐野川茶の相模原ブランド構築】
優秀賞	相模原市立橋本小学校 【オリジナルの歌と体操で食品ロス削減】
協働賞	Kids Fine 【育児に必要な情報発信と障がいのある方向けの居場所づくり】
未来創造賞	ランチパッドテクノロジー&パートナー株式会社 【さがみはらプログラミングコンテストの実施】

## 協働賞受賞「Kids Fine」にインタビュー！

KidsFineは2022年4月に設立され、現在は任意団体として、協力会員10名・地域ボランティア約30名とともに活動しています。

子育て家庭の元気づくりやママの自己実現を応援する地域活動に加え、18歳以上の障害のある方のコミュニティスペースも運営。地域資源を活かし、親・子ども・学生・シニアがつながる、誰ひとり孤立しないSDGsな活動を市内で展開しています。

今回は代表の渡辺さんにインタビューを行いました。



さがみはらSDGsアワード2025授賞式の様子

### Q. 協働のコツ・ポイントは？

活動を続けていると、地域のニーズは少しづつ変化していきます。その変化を受け止め、柔軟に取り入れて“進化し続けること”が大事だと感じています。自分の得意分野やできることを少しづつ持ち寄り、共感してくれる人や理解者を増やしていく—その積み重ねが協働のポイントです！



活動の様子

### Q. 様々な相手と一緒に活動してよかったです？

いろいろな立場の方と関わることで、活動の幅がぐっと広がりました。活動を広げること自体も大切ですが、それ以上に、関わってくださる方が応援してくれたり、力を貸してくれたりすることが、次の一步を踏み出す原動力になっています。

### Q. 市民の方へメッセージを！

「嬉しい」を積み重ねていけば、きっと自分の隣にいる人まで笑顔になります。KidsFineは、笑顔で集い、支え合える“居場所”として、地域に理解者を増やし、どんどん巻き込まれる仲間を広げていきたいと思っています。相模原の“民度”と満足度が上がり、ロールモデルとしていろいろな地域に広がっていくと、とても嬉しいです。

### ◆編集後記◆

行政と団体が力を合わせると、こんなにワクワクする事業になるんだと実感しました。木炭蓄電池を使ったソーラーシステムの作成ワークショップは、子どもも大人も楽しめる内容です。SDGsアワードの表彰の場も、協働の可能性を強く感じさせる時間でした。